



先入観は可能を不可能にする

6月は大きな年中行事もなく、なんとなく落ち着いている時期に思えますが、学生にとっては結構忙しい月です。中3は修学旅行があり直後に中間テスト、高校生も中間テストが終わったと思ったら大学進学相談会があり、大学受験のための全国模試などもあります。そしてこの塾が会場の4つの検定もすべて6月中の実施。この6月の検定だからなのかもしれませんが、時々耳にするのが「絶対に受からない自信がある」なんていう変な言い訳。受かりたいと思いつつ、練習不足を自覚していて不安になり、不合格になった時のための予防線を張っているのでしょうか？

さて今回のタイトルを見てください。これは大リーグでも大活躍の大谷選手語録のひとつです。本当はできたかもしれないことが、自分や周りの人たちの思い込みによってできなくなってしまったとすれば、なんとも残念です。例えば「頭の固い上司が絶対ゴーサインを出してくれないからこの企画は無理だよ」と初めからあきらめムードの社員と「企画が通らなかったのは何かが足りなかったからだろうから、そこを修正してもう一度出してみよう」と考える社員。社会に出てあなたが上司や同僚ならどっちの社員と一緒に仕事をしたいですか。

学生時代は教科書に書いてあることを勉強するだけでなく、建設的にものを考え行動する習慣をつける場でもあるはず。言ってみれば良いクセを身につける練習です。だったらきちんと準備をした上でチャレンジしましょう。先入観だけでものごとを判断することと、あらかじめシミュレーションしながら予想される困難への対処法を考えることはまったく逆のことです。「まあ、どうにかなるだろう」で進めて結局うまくいかなかったからといって「これはそもそも無理なことなんだ」とすぐに結び付けないでください。検定ならば過去の問題をいくつかやってみて、自分が苦手な分野を見つけ、そこを集中的に練習した上でまた他の過去問をやってみる。それだけで自信を持って検定日を迎えることができますよ。